

# I 地形・歴史 Topography & History

## 1 地形等

市の北東部に位置しており、北西に猫鳴山や三森山を背負い、東は太平洋に面し、南は夏井川下流の海岸平野に続いて平地区と接している。猫鳴山を源流とする仁井田川は、西部の山地を南流し上柳生付近から東に向きを変えて広い沖積平野をつくり、太平洋に注いでいる。

仁井田川に沿った下流部は優れた農地が広がり、北部は豊かな森林(丘陵地)からなっている。中央部にある高倉山周辺は、三葉虫・アンモナイト等の化石が出土する古生代二畳紀(約2億4千万年前)の貴重な地層で、自然環境保全地区に指定されている。

四倉駅・四倉支所・四倉港を中心として市街地を形成し、郊外部は純農村地帯を形成する。

## 2 歴史

往古に四倉の地名は見当たらず、文正年間(1466)ころ、岩城氏の重臣四倉修理太夫の支配地となったことから、四倉の地名が起ったと言われる。

大野・大浦は、古くは大野郷と称し、鎌倉時代前後には郡内文化の中心地として盛えた(恵日寺、薬王寺)。明德4年(1393)僧甚恵は、好嶋荘玉山に徳一開山と伝えられる恵日寺を再建した。岩城隆忠は文安4年(1445)薬王寺を真言宗の祈祷所、道場として再建した。

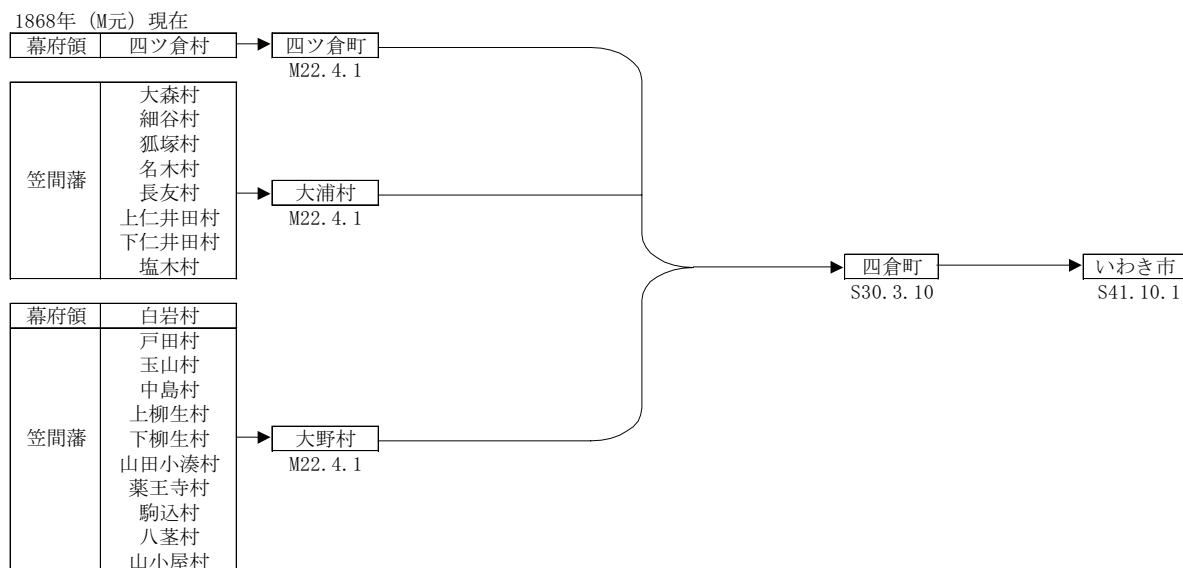
戦国時代までは岩城氏、江戸時代は鳥居氏、内藤氏の所領と続き、延享4年(1747)磐城平藩主内藤氏が延岡に移封されてからは幕領となり、小名浜代官所の支配に属して明治維新を迎えた。また大野・大浦は、寛延2年(1749)笠間藩牧野氏の所領になり、幕末を迎えた。

八茎銅山は昔から知られていたが、寛永2年(1625)ごろ、再発見され採掘された。内藤家時代の末には閉山したが、明治になって再興され、明治末には、ふもとの玉山に2,000余の社宅が建ち隆盛を極めた。

明治40年(1907)磐城セメント(株)四倉工場が設立、八茎銅山から石灰石を買石し、セメントの生産をはじめた。昭和38年住友セメント(株)の系列に入ったが、合理化により撤退した。

(参考文献:「いわき市史」、「新しいいわきの歴史」)

※行政区域の変遷



【昭和 36 年(1961 年)当時の四倉町民の暮らし】

テレビ	6.1 世帯に 1 台	電話	8.5 世帯に 1 個
ラジオ	1.6 世帯に 1 台	電灯	1 世帯に 6 灯
医師	町民 1,592 人に 1 人	警察官	町民 2,600 人に 1 人
死亡	1 日 0.4 人	出生	1 人 0.9 人

※ 昭和 35 年(10 月 1 日現在) 世帯数 4,177 世帯、人口 20,808 人

「四倉町勢要覧(昭和 36 年版)」より

【昭和 36 年(1961 年)の四倉町の農業\_作物の作付面積と家畜の飼育頭羽数】

作物名	作付面積 (a)	農家数	家畜名	飼育頭羽数	農家数
水稻	79,795	1,313	乳用牛	168	99
大麦	15,622	1,190	役肉用牛	490	473
小麦	10,686	1,099	馬	217	215
大豆	8,753	1,015	豚	352	238
小豆	2,046	799	めん羊	173	137
じゃがいも	4,016	1,026	山羊	35	33
ねぎ	1,395	854	兔	29	12
きゅうり	837	731	にわとり	8,622	636
たばこ	410	37			

※ 昭和 36 年(2 月 1 日現在)の専業農家 405、第 1 種兼業 407、第 2 種兼業 635

「四倉町勢要覧(昭和 36 年版)」より